

令和2年度 第5回 市民参加推進会議（会議録概要）

開催日時	令和3年2月17日（水）午前10時から正午まで
開催場所	白井市東庁舎3階 会議室 303
出席者	吉井会長、野口副会長 加藤委員、竹内委員、花山委員 寄本委員、小川委員、佐々木委員
欠席者	0名
事務局	市民活動支援課 松岡課長、紫尾主事、高橋主事補
傍聴者	0名
議題	(1) 総合的評価の確認について (2) 答申書の提言事項に対する検討
資料	① 令和2年度第5回白井市市民参加推進会議 次第 ② 答申（たたき台）平成31年度市民参加の実施状況に対する総合的評価について ③ 総合的評価に基づく提言事項の概要版 ④ 各委員からの前文・提言事項等まとめ ⑤ 令和2年度市民参加推進会議スケジュール

（会議次第）

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議題
  - (1) 総合的評価の確認について
  - (2) 答申書の提言事項に対する検討
4. その他
5. 閉会

（会議内容）

**議題（1）総合的評価の確認について**

**1. 第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略策定**

**○委員**

大きく分けて、今日は総合的評価の確認についてと、答申書の提言事項に対する検討という、この大きな二つの事案について検討を皆さんとしていきたいと思えます。まず総合評価の確認については、事業ごとに3事業ありますけれども、事業ごとに行っていて、次に分割して進行していこうというふうに思えます。

まず第一に、コメントの確認ですけれども、第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の事業について、行きたいと思えます。この中で総合コメント、あるいは個別の市民参加のコメントについて、追加ないしはいろいろな形の修正みたいなのがありましたら、どうぞ御意見、御発言のほうをお願いいたします。

**○委員**

大したことじゃないのですが、例えば実施した市民参加の評価の4ページ目の下のところ

は、②番と④番は結構かぶっているので、一緒の文章にしてもいいかなと思ったのですが、どうですか。そういう意見を言ったほうがいいのですか。

#### ○事務局

そういった今、記載の意味合い同じだから、ここは合わせたほうがいいのじゃないかとか、そういった意見どんどんもらえればと思っております。

## 2. 第2期白井市子ども・子育て支援事業計画策定事業

#### ○委員

ここの事業の一番最大のネックは、18人も集めていて、公募人数が2人だということだと思うのですよね。人数がすごく多過ぎて、公募人数が少ないので、なっていないというような感じにもうちょっと表現を強くしたほうが、これを市民参加のあった事業だとは言いがたいと思うのですよね。

#### ○事務局

公募委員が少ないということを総合コメントの中でもう少し強調してはということで、これ、また考えさせていただくのですけれども。総合コメントで大いに改善を要するとなっておりますので、公募が少ない以外で、何かもう少し強調すべきものが、これまでの総合評価の中からあるのであれば、この総合コメントにまた付け加えさせていただきますので。委員さんから御意見頂きたいと思えます。

#### ○委員

結局周知が徹底していない。それで市民に届いていない。自分の思いですけれども。それで、こういう例えば数字なり、結果なりになったのじゃないかということで、ここのところは、強調させていただいたつもりなのです。

#### ○委員

前回ヒアリングをしたときに僕質問をして、要するに公募委員の募集だとか、パブコメ募集だとか周知方法で、広報とホームページだけで、あとは一切やっていなくて、委員さんからそれに対して広報は市民は見えないよねみたいな話をしていたと思うのですけれども、そのときのコメント、これ見えて、全戸配布、当然「広報しろい」は配布しているから、それ以上は考えませんでしたというのは、担当課からすると、分かるのです。行政の職員として広報、一つの手段、伝える方法としてのメインにはなってくると思うのですけれども、そこで何か考えというか思考が止まってしまっているのです。もう少し例えば、子育てに関することだったら、子育て世代に対して伝える、もう少しやり方、方法とかを模索しながら、いろいろ伝えるということも考えるべきだったのじゃないかなと思ったので、その辺、僕自身も多くの改善が必要なのかなと、そういうふうに思います。

#### ○委員

子育て支援事業というのは、白井市附属機関条例に基づいて、18名で3年でということが決まっているとして、以前より18名で取り組んでいると主張。一方評価は、以前より人数が多過ぎて、市民参加の位置づけがなっていないと指摘している。

#### ○委員

広報しろいに載せたから、ホームページに載せたからというところで止まってしまうというのは、市民の目に届かないという意識をもうちょっと高く持ってもらって、どうした

らもっといろいろな人に、市民に見てもらえるのかなというところを考えると、まず取りかかるというのが一番大事なのではないのかなと思いました。

### 3. 西白井地区コミュニティ施設整備事業

#### ○委員

このコミュニティ施設の件に関しては、結構、公募も多く入れられていまして、随分地域住民も入って。あとのいろいろ見た結果分かると思ひまして、そういう意味では、委員の数については、ちょっとないかなという。委員の人数はです。ただ、地域住民の参加率が結構高く、意識を持っている方。前回、私のほうから、そこそこだという数字が出たのかなという認識でいます。

#### ○委員

高齢者のみとなっている点に工夫が必要であったと書かれている委員さんがいらっしゃるのですが、本当にその点は、これから高齢者がさらに多いと思うのですけれども、そちらも工夫が必要だと思ひます。

というのは、この施設を使うのは、子供も使うでしょうし、私たち子育て世代でも、働いていらっしゃる方含めて、若い方とかいろいろいると思うのですけれども、そういう方の意見も聞いたりとか、高齢者の方は日中のこの時間帯にいらっしゃるからとか、そういう理由なのでしょうけれども、その点だけで会議が進められちゃうというのは、気をつけたいほうがいいと思ひます。

#### ○委員

この事業は点数にしたときに低く出ているけれども、市民参加ということから言ったら、結構いろいろとできていて、優良可みたいな形で分けているとしたら、結構よくできているということじゃないのかなと思うのです。ただ、基準から言うと、望ましい基準になっていないと思ったのですけれども。市民参加という形では十分できていたのだろうという評価。

#### ○委員

パブリックコメントの時期等含めれば、周知する時期が短かったというのは、それだけ市民参加としては改善の余地がある。そういう市民参加としては、パブリックコメントの時期だとか、改善の余地はあるにしても、いろいろと見ると、できているところもあるよねみたいな書き方をすればいいのかなと思ったのですけれども。

#### ○委員

点数のつけ方なのですからけれども。手法をたくさん採用していれば、点数は高くなるというやり方なので、1番の創生の総合戦略については、手法が多かったのです。点数が82点になっていますが、ほかのところは、手法が少し少ないことだけに結果的には点数が低くなっている。ここら辺の点数ということに対する、それを基準は75とやっていること自体にすごく違和感がある。やったことが多ければいいということではなくて、内容的に良かったものが点数高くなるようにしないと、たくさんそういうことをやっているから、手法をたくさんやることに慣れてるわけですから。そういうところの数をやったことが点数が高く、そうでないところの点数が低くなるようなやり方というのは、そもそも何か違和感を、すごく最初から覚えているのですね。

## ○事務局

今の点数の部分で、答申のたたき台の2ページ目を見ていただくと、分母が出ていて、1番目は110点のうち85点、2番目が90点のうち56点、次も90点のうち64点と なっていて、市民参加の手法をやればやるほど、確かに点数は上がるのですけれども、その分母も手法の数だけ上がっていくということで、一概に点数、市民参加の手法やればやるほど、点数が上がれば上がるというのは、確かにそうなのですけれども、同時に分母も上がっているのです。ただ確かに二重丸、丸、三角という区分で言えば、分母に限らず評価は決まってくるので、この辺は検討の余地はあるかなと思っております。

## ○委員

私、個人的な意見としては、手法が基本的には、市民参加ということから、手法はいろいろな意味で取り入れてほしいなというふうに思います。ですから、結果的にうまくいったとしても、この手法を取っていればよかったなという思いは、それぞれにあると思いますので。基本的に点数の問題はあるのですけれども、手法ということは、市民いろいろな人に情報が、取組が行き渡る、そういうことにもございますので、手法は取り入れてもらいたい。あとは受け取り方の問題、あるいはその発信の問題というのは出てくる。

## ○委員

総合コメントのところに、全部否定的な話だけしか載ってこない。

パブコメも応募者も、あと幾つか、例えば情報公開等についても、多少問題点はあったけれども、総体的には十分市民参加ができた事業であったと個人的には取ったものですから。

## ○委員

個別の総合コメントの〇〇委員のコメントは、すごく褒めているコメントだったかと思うので、こちらも参考にさせていただけたらいいのではないかと思った。審議会16回、住民説明会も開き、市民と時間をかけて丁寧に議論して決定しようとしたことが理解できたというコメントです。

## 議題（2）答申書の提言事項に対する検討

### ○事務局

議題2では、提言事項の検討をお願いできればと思います。

まず、一番後ろのページの提言、それからもう一つ、一番最初のページの前文、ここについて検討をお願いできればと思います。

### ○委員

それを、今もお話ございましたけれども、答申としては前文と提言から成り立っておりますが、まず、提言事項のほうから深めていくということにしたいと思います。

### ○事務局

説明が足りていなかったのですけれども、前文ですね。。資料1の1ページ目の後半部分ですね。「今年度は市民参加推進会議任期1年目の答申として」の下の5行、4行ぐらいですかね。「市民参加条例の制定から16年目を迎え」から、下4行目の「市民参加の質を高めていく必要があるといえます」。提言の内容によっては、ここは変わってくる可

能性もあるので、まずは提言から検討いただいて、時間があれば、前文の方向性も決めていただいて、時間がなければ、また提言の内容を見て事務局のほうでも考えていきたいと思います。

#### ○委員

私が出させていただいたもので、資料3のところの7ページの③ですけれども、これは会議の運営に関わる部分だとさっきおっしゃられたのですけれども、私は16年間ずっと提言が続いてきて、各年度の提言がどう取り組まれて、その取り組まれた結果、どういうふうないところや改善点というか、課題とかがあったのかというのが、年度、年度引き継いでいかれているのかというと、頂いた資料ではよく見えないのですね。

だから、そういう部分を反映されているのか、されていないのか、よく分からないのだけれども、次年度に生かしていくということが重要だから、それが質の向上につながるのですよという意味で申し上げて。その方法の一つとして、調査票の中に各事業課がそういうところを書き加えてもらうというふうにはできないかとここには書いたのだけれども、この会議の運営方法云々で私は申し上げたつもりじゃないので、前の提言のほうに入れていただきたいというのが、私の一つお願いです。

#### ○事務局

主に③のところですか。

#### ○委員

どう表現するかは別にして、ここはこの推進会議の運営方法云々を申し上げたのじゃないので、そういうふうな過去のをどうフィードバックしながら、年々改善していったらいいとか、質の向上に努めているのかということところが、私は言いたかったことなのです。だから、できれば、そういうふうに提言の前のほうに入れていただければというのが私の意見です。

#### ○事務局

分かりました。取組内容の一例として、調査票の新設というふうに出されているということで、そこをそのまま入れるとすれば。

#### ○委員

そこに書き加えてもらえれば、我々は総合評価する時点で、担当課がやってきた内容が、市民参加という視点でどういうふうに取り組んだ、改善したということが次につながっていくのじゃないかと。その部分が、今までの過去頂いた資料の中では見えないので、16年もやってきているということは、今、何が問われているかということ、多分質の部分を問われていると思うのだけれども、その質を我々もどうやって委員として上げていくかということのも大きな課題だと思うので、私は今回出させていただいたのを上げると、委員としての総合評価の質をどう向上させていったらいいのかという視点と、それから事業を担当する課の質を上げていただく市民参加という視点、それと、この会議を運営していく事務局の皆さん方も併せて、お互い質を上げていくという部分が今求められていることじゃないのかなというのが、私が何か月か参加させてもらって、今思っていることなので。表現の仕方がうまくできていない部分もあるのですけれども。

#### ○委員

今回は、この3事業の市民参加についての総合評価なわけですよ。その中で直接的に

出てくる、一つの浮かび上がってくる部分と、それから全体的にそもそもというところの部分。その他というのは、今回の答申の中に入れる、入れないとかということは、また別途、別な機会をもって、そもそも論ということになるのですか。

#### ○事務局

提言というのが、そもそも職員に向けてということにはなるので。自分が解釈を誤っていて、調査票の提言、これまで指摘されたことについて、どういうふうに取り組んできたのかというのが分かるように調査票の項目を示してほしいというふうに記載されていたので、その他のところに入れてしまったのですけれども、そうではないということなのですか。

#### ○委員

そうですね。もともとの考え方としたら。

#### ○事務局

趣旨としては、市に改善をお願いしたいという部分は、過去16年の提言がどう生かされたのかというのを調査して行ってほしいということなのですか。

○委員 最初に5年分頂いたときに、質問でお返ししたときに、取組結果は一体どうなっているのですかというのは、どこを見たらあるのか、以前の提示された資料では、そこはよく分からないから、計画と結果というのをきちっと我々も見える形で確認をしたいし、どこでそれがつながっていているのかというのを見たかったので質問したのだけれども。それについては、私からしてみたら十分な御返事は頂けていなかったもので、その部分は重要かなということで、私は今回、提言の中に入れてほしいということで出したのですけれども。

#### ○事務局

提言事項がなされているかというのは、この委員会で確認をしていくものではあるのですけれども。

#### ○委員

でも、そこがよく分からなかったのです。例えば去年のものは、この会議の中で、どうそれが改善されたかという議論とか説明ってありました。私そこは聞き逃したのか、自分では、その部分はなかったというふうに思っていたのだけれども。

#### ○事務局

過去の提言事項のお話はしていなかったもので、提言事項に対して、そもそも提言事項が何だったのかというのも、事務局が一度話をして、それで調査票を見ながら、過去の提言で、例えば平日夜間に開催しなさいよという提言出ているけれども、調査票を見て、余りでできていないとか、そういうところが見えてくるので、それは毎年の評価でできている、できていないというのを評価していくということになると思うのですけれども。特に提言事項にスポットを当ててやれている、やれていないというのが分かるように調査票を新設するというので、今回、一つ取組内容として上げていただいているのですよね。

#### ○委員

どこの部分を改善するかというと、目に見えるものとしたら、調査票というのが我々頂くので、その中にその部分を表現していただければ、我々も総合評価をするときに評価をしやすいというふうに私は思うのですけれども。

## ○事務局

そこは、今回の答申に載せる提言内容というよりは、会議の運営の。

## ○委員

〇〇委員がおっしゃっていることは、すごく分かることで、これまでやってきたことをどうつなげていって、提言がどう改善されているかという話。それを踏まえて、評価シートとか、いろいろなそういったものを改善してもらおうという話だと思うのですけれども。

今回の提言内容というのは、あくまでも今回この3事業から基づいたといいますか、3事業の中のこれは参加の方法だとか、周知の方法とか、そこら辺の中で、いかに改善する必要があるかということがメインだったような。僕も話を聞く限りでいくと、要するに評価シートの作り方であったりとか、それから、次年度からどう引き継ぐのかという話になる。どちらかというところ、この委員会の運営方法という話になっているのかなとは思っているのですが、その辺は分けて考えたほうが、すっきりするのかなというふうに思うのですけれども。

## ○委員

各担当課が市民参加という視点でどういう考え方で、こういういろいろな手法を使って、今年やりましたよ、この事業やりましたよということがよく分かりませんねという議論がいろいろあったと思うのです。だから、その部分を明確にして、かつ、その結果どうだったというものは当然、どの事業であれ同じことなので、そういう議論を踏まえて、もともとの担当課の考え方と結果と、どう改善するというものが一連の流れとして、今回の提言の中にも、私は配布、それは三つと去年とは事業は違うにしても、考え方は皆一緒なのだから、それをこの提言の中に入れたほうがいいのじゃないかというのは私の意見です。それをどう取り扱われるかは、この中で議論していただいたらいいと思うのですけれども。私は、皆さん方の議論をずっと聞いている中で、さっきそう言ったように、入り口の部分と出口、改善というのがずっと連続性というか、継続していったら初めて質の高いそのものになっていくので、そこのところは過去の提言の内容を見ても、そういう部分はないから、そういうのも入れたほうがいいのじゃないのかなというのは、私の考えなのですけれども。

## ○委員

取りあえずこの場はこの場として、事業の総合評価に関することになりますので、それが関係ないとは、そういうことじゃないのですけれども、また別途、別な機会を持って、例えばこの会議の在り方、進行の仕方、例えば調査票なんかだったら、そのものを別途、またきちんと議論をしていくということはあるかと思っておりますので、よろしくお願ひします。

## ○委員

資料の中に基準点の作り方の資料がありましたよね。あれの見直しとかというのも、それは、この中の提言の今回やる中には入れないという、それは別に機会を設けるといことですかね。私もあそこの基準点のつけ方の表でしたか。あれにも意見が少しあるのだけれども。

## ○委員

その辺については、また別途、この会議なら会議の在り方の部分というところにかなりな  
っていくのじゃないですかね。そうしないと、この今の事業の評価に対して、それを入  
ってしまうと、全く評価にならなくなっちゃう場合もあるので、決してそれを否定する話で  
はないのですけれども、それは切り分けの話です。

**○委員**

ただ提言として、市民参加の総合的評価、評価基準及び水準というものは決められたも  
のとしてあるのだけれども、それを改善するとか見直すということは、提言の中には入ら  
ないと、そういうことですか。

**○委員**

そういうことのほうが、なじむのじゃないですかね。

**○委員**

過去の答申のところの説明のところを見ていると、何を改善したとか変えるとかというこ  
とも表現の中に入っていたから、そういうことも入るのかなと私は思ったのですけれど  
も。

**○委員**

事務局が書いた提言で、最後の2行が一番ポイントで、前段のほうは、毎年、毎年情報  
云々ということは書いているのですよね。取り組んでもらいたいとか、努力してほしいと  
か、もっと積極的にとかいうふうに書いてあるのですよ。それではまた同じになるので、  
例えば従来の方法に加えて、新たにSNSの活用とか、参加している協力事業者へもっと  
働きかけて、いろいろな情報公開の創意工夫をなささいというようなスタイルに変えれば  
提言になっていると思うのですけれども。

**○委員**

確かに、創意工夫のある積極的な情報発信というふうに言われてしまうと、そこで提言さ  
れたことが、実際に3年後とか5年後とかに同じ事業を行って評価をしたときに、改善さ  
れているかということが評価しづらくなります。情報発信というところを具体化して書い  
ていくことによって、提言したことが改善されているかということも評価しやすくな  
ってくるというか、市民参加が本当に推進されているかと見えてくるのかなとも思います  
ので、具体的な提言をして、そこをモニタリングしていくということも必要なのかなと  
思います。

**○委員**

趣旨としては、この場では皆理解していると思います。あとは言い方、書き方、盛り込  
み方の部分かなと思いますので、またそれを作っていただいて、次回、皆さんとまた討議  
するというのもあろうかと思います。

また、これ何度も申し上げますけれども、最終的に、ここの会議の例えば1年間なら1  
年間、何年間の結論として、総論として、また市に対する、あるいはその他の部分に対す  
るある種の提言というのですかね。そういうこともまた機会はあるかと思っていますので、  
その辺ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

**○委員**

先ほど言いましたように、最後の2行ぐらいが非常に新たな言葉だから、提言は長く文章  
書いても、説明書いても、従来の方法はもう何回も指摘しているわけだから、新たな方策



を取り組めというようなスタイルで提言してもらったらと思いますけれども。

#### ○委員

例えばホームページで公開したり、広報しろいだけでなくて、なし坊のツイッターとか、ああいうので広報するとか、具体的なことを書くということも重要だと思います。そういうことを提言したときに、それが実際に担当課にちゃんと伝わるのかというところが分からないところでして。今までも、こうしたほうがいいたろうということは、私たちが採点をした表に書かれていたとは思うのですけれども、それと同じような形でしか伝わらないのであれば、実際にその評価表とかを見た担当課の方でない、やらないのじゃないかなというふうに思います。何かこういう市民参加の取組を行うときに、これはやったほうがいいみたいな、まとまっているリストとかがあるといいのかなと思いました。そういうものをセットにしていかないと、ちゃんとやってもらえないというか、やる気がある方はちゃんと、見てやられるのでしょけれども、そこまでやる気がなかったり、時間がなかったりすると、そういうところまでたどり着けないので、市民参加をやる前に、これを必ず見てくださいねみたいなリストがあったらいいかなと思ったのですね。

#### ○委員

私は市民参加というのが、前の資料もいろいろ見ましたけれども、前よりか慣れてきましたから、慣れてきた点は評価しますとか書いてあるけれども、パブリックコメントは全然意見がなかったですかとかいうようなことが、前の議事録を見ると書いてあるのです。何回も書いてあるのですよ。

今回のヒアリングでもすごく思ったのですけれども、ある担当課は、公募人数を増やすつもりありません回答するし、ある担当課は18名で会議にならないでしょうといても、18名は、非常に適正な人員なのだとされる。公募の人間が少ないといっていたら、集まらなかったのですで終わりなのですよ。

公募の人間が集まらなかったという、あるセクションの人間が、何やってんだ。集めなかった理由を出せ。どういうふうに改善するか出せという指示があるのですけれども、白井市の現状はなかなかそういうような組織になっていない、きっと。

根本的な改善を誰かが、言って作るのじゃなくて、各市の職員の人たちが、本来の市民参加をやるのに、公募は何人、定員は何名にしたらよい会議ができるかなど、パブリックコメントを集めるのに、どうやって集めたらいいのだろう。何がネックで集まらないのだと。市民参加という条例に合った形で、自分たちで議論して、白井市の本当の市民参加という形はこういうものなのだというのを作る。そうするものを作れば、それに合っているか合っていないかということで評価もできる。このオーソライズされた一つのものみたいなのが、一つの憲法ができれば、非常にスムーズだと思った。それを外からは言うのじゃなくて、市の職員たちでみんなで話し合って決めなさい。このままいくと、行為だけでどんどん実態がない市民参加で終わってくと私は思いました。

#### ○委員

あと、一つのアイデアですが、市民参加の評価が高かった事業を市長が表彰すること。どんどん市民参加の中身は良くなると思う。

#### ○委員

職員表彰制度のような中に、市民参加という切り口での、よく頑張りましたねとかとい

う評価。人事評価なのか、そういう表彰なのか分かりませんが、そういうものはあるのですか、市には。

#### ○事務局

直接的なものはないです。

#### ○委員

市長の前でもって、今年度良かったのは何々課、はい、どうぞと表彰するだけでも、数段違うと思いますけれどもね。

#### ○委員

割り込んで申し訳ないですが、今、情報発信についての話ずっとしているのですけれども、もう一つあるのは、市民参加のモチベーションが上がるような手法を持ち込めないのかと。情報発信が大事ですと。ただし、市民が参加している、参加して良かったとか、参加したいと思うようなモチベーションを高める手法というのを開発するなり、何かやっていかないと、結局ちゃんとしたいい意見が出てこなくなるのじゃないかな。

それで、私が書いたのは、まずは委員のバランスの問題。それから公募委員のバランスが悪いというのは、例えば事業者が10人いて、公募委員も2人しかいないような中で、公募委員の意見は本当に通るのですかということ。

あるいは、フィードバックして、意見が本当にいいかどうかは別にして、そういうサイクルをちゃんと回していくということをやられたかどうかということも、一つの考えだと思うのです。

それで、公開しました。よくあるのが、何とか案件で公開しないと書かれるのです。そうじゃなくて、公開も、1本の中にいろいろな案件が今度は公開されていて、その中から市民は、この案件なら俺は答えるよとかというような答え方をする。自分に興味ある、あるいは自分に意見があるものについて答えるような、そういう公開手法、意見集約の手法を取るとか、何かもっと変えるべきことが多いんじゃないかというの。

#### ○委員

ガイドラインがあると、確かにやることはやるのですけれども、そういうものができてしまうと、市の方が自分で考えて創意工夫というところが薄れてくるのかなと思います。

ただ、そういうものがあることによって、質が担保されるということもあるので、一長一短かなと思うのです。

他の委員から提案として出されている職員研修というの、ただ受け身で聞いているだけだと、なかなか自分で考えるということがないのですけれども、例えば既にやっていらっしゃるかもしれないのですけれども、ワークショップ型にして、比較的若手の方に参加していただきながら、自分で考えて体験していただくような形でやっていくと、これから市民参加をやっていく中で、自分で考える方が増えてくるのかなと思いました。

表彰というのもすごくいいなと思ったのですけれども、表彰することになると、どうやって評価していくのかというところで、また大変ですよ。例えば今回、議論の中で皆さんから出ていたところで、良かった点がすごくあるのに、そこが共有されていないみたいな話が多かったような気がしていて、そこを総合評価で褒めたほうがいいというところもありました。具体的に良かった点を共有できるような情報クラウドのような、そういうものが整ってくると、これから市民参加をやられる方が選択できる具体的な提案、具体的な

やったほうがいいことみたいなのがまとめられていると、市民参加はよりよくなっていくのじゃないかなと思いました。そういうのはいかがでしょうか。

#### ○委員

非常に今の建設的なといいますか、前向きなポジティブな御意見だと思います。というのは、具体的にいろいろな事業を推進して、皆さんからいろいろな御意見とかあるのですけれども、それをつなげていける形かなというふうに、私は個人的にはそれを理解しました。

#### ○委員

良かった点は、非常に点数以上のものを評価して、逆に、やったけれどもできていなかったものについては、評価しないというようなことで進めてもらうようにしたほうがいいのじゃないかなというふうに思います。

#### ○委員

すみません。話が半分最初のほうに行きます。情報公開の提言の内容で、最後、SNS等を活用する、これは今までなかった提言内容の話で、確かに今回の三つの事業を見たときに、広報とか図書館とか、そういうところの情報提供が基本だったと思うので、確かにその情報提供手段・方法を多様化といいますか、増やしていくということは重要で。特に、最近、各自治体でもSNSでかなり情報発信している部分がありますので、そういうのを活用するかなのですけれども。

ただ、情報の手段・方法を多様化すれば、それで市民には伝わるのかというと、必ずしもそうではないので、重要なのは、さっきから出ている職員の意識改革というふうにつながる話ですけれども、誰に一番伝えたくて、それには何が一番、手段・方法としていいのかというような戦略的な考え方を職員の側が持っていないといけないのだろうと。

特に、まち・ひと・しごとの中だと、チラシを配ってQRコードでやったけれども、結局あれは今年うまくいかなかった。でも、あれはうまくいかなかったけれども、ああいう取組というのは、すごくいい取組だと思うので。ああいうような特に若い人たちのまちづくりに対する意識を聞きたいというならば、そういった方法というのは確かにベストだと思うので、いろいろな広報手段がある中で、職員自身が誰に伝えたくて、どういった手段・方法が適切だったかというのをこの文章の中に盛り込んでいくことは、具体的に書いたほうがいいのかなと個人的には思います。

#### ○事務局

提言に関する1項目め、情報発信については、皆様から様々な新しいアイデアと、それから付け加える語句ですとか、考え方というのを頂きましたので、このことを十分に盛り込ませていただくような内容で、しっかりとまた最終案を作らせていただきます。

二つ目については、皆さんからアイデアとして多数のことを頂きましたけれども、今まで個人、個人の委員さんの御意見というところになっている状態にあって、どれも市民参加の新しい考え方としてはあるのだと思います。ただ、この総合的評価と絡めて、どの項目を提言化していくのかということところまでは本日行っておりませんので、事務局のほうでは、情報発信以外の新たに出てきた事柄を、どういう事柄の意見があったかということを中心にちゃんと整理をさせていただきますので、それを委員さんにフィードバックをさせていただきます。その中から総合的評価と絡めて、このことについて、第二の提言あるいは第三

の提言として出したらどうかという御意見を、改めておありの方は事務局にメール等で出していただくということでしょうか。

#### ○委員

皆さんの話、今聞いていて思ったのですけれども、私的には、市職員の方の意識改革が大事なのではないのかなと。フィードバックもそうですし、表彰するというのもそうですけれども、市職員の方が結局、規定どおりにしか動いていないじゃないですか。このシートがあるから、このとおりにやって、公開のときはいいやみたいな感じで、評価シート書いてというのが上がってきて、私たちが評価して、後からヒアリングしたら、もっといいこといっぱいあるじゃんというのが出てくるというのがあるのですけれども、市職員の方のもっといいところがこんなにありますよとか、こんな案、私あるのだけれどもというのを多分もっといっぱい皆さん持っていらっしゃると思うのですよ。一人一人が言えないだけで。

なので、市の職員の方の意識改革をまずしてもらわないと進まないのではないのかなと。皆さんの意見が、結局あるのが、市職員の方の意識が変わらなければ、フィードバックにしる、16年間やってきたことの言われたことにしろ何にしる、変わっていかないとするのは意識が変わらないからなので、そこなのではないのかなと今すごく思いました。

#### ○事務局

委員会として、つまりは意識改革なのだということでしたら、そこをドーンと出してください。それはなぜ意識改革かということ、総合的評価の中でこういったこともあり、こういったこともあり、こういったこともありました。そういったことは、過去にも提言として出されている部分も多々あるということも確認をされる中で、大事なことは、職員の意識改革といったときに、職員の意識改革が必要だということと終わってしまうと、先ほどの情報発信、適正な情報発信が必要だということも抽象的な表現で終わってしまうので、例えば意識改革のためには何々が必要、例えば職員の研修だとか、あるいは表彰なのか、あるいは職員研修の中でも、ただ一方通行的なものは聞いて終わりになるから、参加型でワークショップを踏まえてやっていくとかという、そういう形のこういうことが評価であったのです。必要なことはこういうことなのです。具体的には、こういうことが取り組めばいいのですということがセットされてくると、その提言としての、受け止めて職員にフィードバックして出していくときには、より具体的に知らせていきやすい部分になるので。

そういう観点から、今日、後半部分に出された意見に対しての総合的評価との関わりと、それから具体的な提案に対する具体的な取り組む事柄みたいなものが3点セットぐらいで皆さんから提案出していただけると、事務局としては、まとめやすいですし、皆さんに諮って決めやすくなると思います。そのようなところにぜひ重点を置いて、再度お考えいただけたらと思います。

#### ●4その他

事務局より事務連絡

#### ●閉会